

6つのDomain of Competence ルーブリック

		A	B	C
主体性	① 主体性	自らの問題意識に即して課題を設定し、問題解決に向けて、試行錯誤しながら粘り強く継続的に取り組むことができる。	自らの問題意識に即して課題を設定し、問題解決に取り組むことができる。	自ら課題を設定することができない。
協働	② 協働	問題解決に向けて、自身の果たすべき役割を自覚したうえで、他者と協力して活動に取り組むことができる。	問題解決に向けて、他者と協力しながら活動に取り組むことができる。	問題解決に向けて、他者と協力することなく、単独で活動に取り組んでいる。
議論	③ 主張	自身の考えを、相手の認識や知識の程度に配慮して、論理的かつ適切な表現によって説明することができる。	自身の考えを、論理展開に注意し根拠を示して、説明することができる。	自身の考えを伝えようとするが、説明不足や論理の飛躍により、論旨を明確にすることができない。
	④ 傾聴	自身の考え方との違いに注意し、必要に応じて質問を投げかけながら、他者の意見の正確な理解に努めることができる。	自身の考え方との違いに注意しながら、他者の意見の理解に努めることができる。	自身の考えにこだわってしまい、他者の意見を受け止めることができない。
	⑤ 昇華	提示された様々な意見の共通点や相違点を整理し、それらの意見を統合して、より良い問題解決の方法を模索することができる。	提示された意見の中から良いものを選択しようとするが、それらを越えたより良い問題解決の方法を模索するには至らない。	それぞれの意見をただ提示するに留まっている。
思考力	⑥ 論理的思考	ある問題について、多角的な視点で捉え、論理的かつ客観的な思考により解決に至ることができる。	ある問題について、論理的な思考により解決に至ろうとするが、客観性に欠けるところがある。	ある問題について、論理的な思考により解決に至ろうとするが、論理に飛躍や破綻が見られる。
	⑦ 批判的思考	提示された事柄を、鵜呑みにせず批判的に捉えることを通じて、問題の本質に迫ることができる。	提示された事柄を、鵜呑みにせず批判的に捉えることができるが、問題となる論点を明確にするには至らない。	提示された事柄を、鵜呑みにし、安易に事実として受け入れてしまう。
メタ認知	⑧ 自己認識	自身の認知の歪みや偏りの性質を理解し、必要に応じて修正することができる。	自身の認知に歪みや偏りがあることを自覚し、それがどのような性質であるかを理解している。	自身の認知に歪みや偏りがあることを自覚できていない。
	⑨ 状況認識	自身の置かれた状況を客観的に捉え、それを踏まえて適切にふるまうことができる。	自身の置かれた状況を客観的に捉えることができるが、認識が不十分である、あるいは、認識に基づく行動の変容には至らない。	自身の置かれた状況を客観的に捉えることができない。
感性	⑩ 知的好奇心	見聞きする現象について、不思議を感じ、抱いた疑問に対して自分なりの仮説を立てることができる。	見聞きする現象について、当然視することなく、なぜそのようなことが起こるのか、不思議に感じることができる。	見聞きする現象に特別注意を払うことなく、やり過ごしてしまう。
	⑪ 観察	眼前の事象を、先入観や偏見に囚われることなくありのままに観察しようし、新たな視点で事象を捉えることができる。	眼前の事象を、先入観や偏見に囚われることなく観察しようとしているが、それらから脱しきれていない。	眼前の事象を、注視することなく、先入観や偏見のままに安易に捉えている。
	⑫ 身体知	自身の体験に基づいた実感として、言語では表現しがたい感覚的な事柄を捉えることができる。	言語では表現しがたい感覚的な事柄を一定程度捉えられているが、自身の体験との結びつきが不十分である。	ものごとの認識が言語的な理解に留まっている。

「探究」で育成を目指す3つの能力との対応関係

ア. 課題設定能力

- ①主体性
- ⑦批判的思考
- ⑧自己認識
- ⑩知的好奇心
- ⑪観察
- ⑫身体知

イ. 問題解決能力

- ①主体性
- ②協働
- ⑥論理的思考
- ⑨状況認識

ウ. ディスカッション・プレゼンテーション能力

- ③主張
- ④傾聴
- ⑤昇華

教科における評価の3観点との対応関係

ア. 知識・技能

イ. 思考・判断・表現

- ③主張
- ④傾聴
- ⑤昇華
- ⑥論理的思考
- ⑦批判的思考
- ⑪観察
- ⑫身体知

ウ. 主体的に学習に取り組む態度

- ①主体性
- ②協働
- ⑧自己認識
- ⑨状況認識
- ⑩知的好奇心

【注意】

わかりやすさを優先し、コンピテンスの各項目がなるべく複数の領域に重複して配置されないように整理している。そのため、厳密な理解としては、上記の対応関係の説明には不十分な点がある。